

自主防災活動実践マニュアル

まち歩き 防災マップの 作り方



玉 野 市

自主防災活動実践マニュアル

ーまち歩き 防災マップの作り方ー

目 次

①自主防災組織を立ち上げよう！	1
②「まち歩き」をして防災マップを作ろう！	3
③災害図上訓練（D I G）で地域の防災力を高めよう！	15
【意見交換のテクニック】	26
【自主防災活動Q & A】	27
【防災グッズの紹介】	29

1 自主防災組織を立ち上げよう！

◆自主防災組織がなぜ必要か

地震が起きた！揺れる！停電！電話が通じない！携帯も！車は渋滞の様子だ！

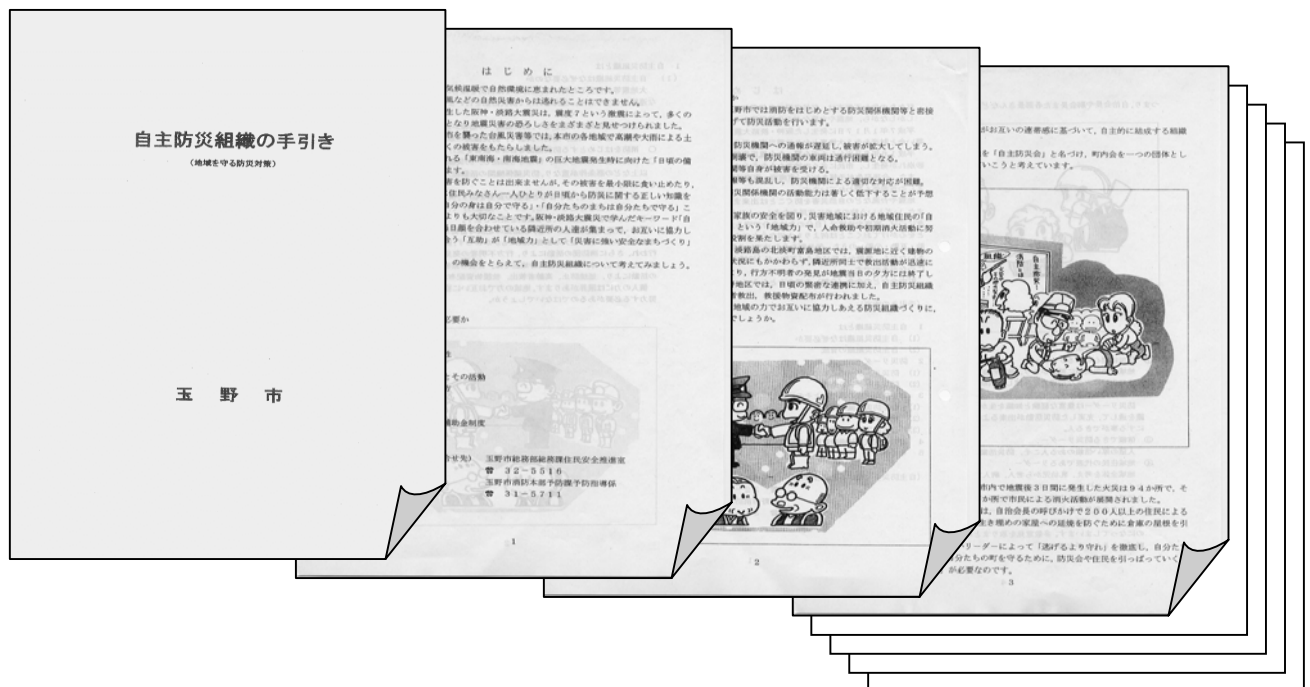
子どもは無事に帰ってこられるだろうか？津波は？火事は？

今、日本列島は地震の活動期に入ったといわれ、危険が高まっています。

いざという時、災害直後には地域の繋がりが強い地区ほど、行方不明者の把握や救助活動が迅速に行われ、生き延びることができる。過去の阪神淡路大震災や新潟県中越地震の経験から学びました。

連絡も交通もライフラインも社会的システムも麻痺してしまった状況下で、助け合えるのはご近所同士だけです。防災の大きな力になるのが、地域の人々が協力して災害に立ち向かう「地域防災力」です。個人の力には限界があります。地域の力でお互いに協力しあえる防災組織づくりに努力する必要があります。

詳しくは、以下の「自主防災組織の手引き(地域を守る防災対策)」をご覧ください。



手引きのお問合せは・・・玉野市役所 0863-32-5567

◆自主防災組織の役割

自主防災組織は、大規模な災害が発生した際、地域住民が的確に行動し、被害を最小限に食い止めるため、日頃から地域内の安全点検や住民への防災知識の普及・啓発、防災訓練の実施など地震被害に対する備えを行います。実際に災害が発生した際には、初期消火活動、被災者の救出・救助、情報の収集や避難所の運営といった活動を行うなど、非常に重要な役割を担っています。

●自主防災組織の活動例●

自主 防災 組織 の 活 動	平常時	地域内の安全点検	地域の危険性や家庭内での安全点検及び各種の防災訓練を通して、日頃から大規模な災害に備えるための活動です。
		防災知識の普及・啓発	
		防災訓練	
	災害時	初期消火	大規模な災害が発生したときに、人命を守り、災害の拡大を防ぐために必要な活動です。
		救出・救助	
		情報の収集・伝達	
		避難誘導	
		避難所の管理・運営	

2 「まち歩き」をして防災マップを作ろう！

いざという時のために、地域で自主防災組織を立ち上げました。

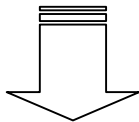
さて、何から始めればよいのでしょうか？

まず、地域を知ることから防災活動の取り組みを始めましょう！ リーダーだけが地域の状況を全て把握するのではなく、みんなで把握したものを少しずつ補い合って、来るべき災害に備えることが大切です。

そのため、地域に住む多くの方々の参加を募り、「まち歩き」をして、自分たちの住む地域の避難場所はどこ？ 危険な場所は？ 行き止まりの道は？ 救助が必要な一人暮らしのお家は？ などみんなの意見を出し合い、まとめ、地域の実情にあったオリジナルの「防災マップ」を作りましょう。特別な訓練をしなくても災害に強い地域の力“地域防災力”が生まれます。また、多くの住民の参加によって、地域コミュニティの活性化にも役立ちます。

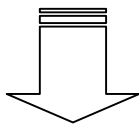
●防災マップの作り方フロー●

STEP1 計画しよう！



「まち歩き」に向けて、道具の準備、点検箇所の決定、日時
の決定、参加の呼びかけ、会場の段取りなどを行います。

STEP2 まちを歩いて点検しよう！



実際に、自分たちの生活するまちを歩きます。避難場所や
危険な場所、消火栓の位置などをチェックシートに書き込
みながら確認をします。

STEP3 防災マップを作ろう！

「まち歩き」で発見したモノやコトを、大きな地図にまと
めます。

●STEP1 計画しよう！●

◆作業の流れ

- ☐ 1. 点検範囲や内容の決定
- ☐ 2. 「まち歩き」の日時の決定
- ☐ 3. 参加人数の予測とPR
- ☐ 4. 会場の手配
- ☐ 5. 地図の用意
- ☐ 6. 準備物の手配
- ☐ 7. チェックシートの準備
- ☐ 8. スタッフの役割分担と当日のスケジュール

◆用意するもの

- ☐ 「まち歩き」に必要な文具、地図、シートなど
〔STEP2(8頁) STEP3(11頁)を参照〕

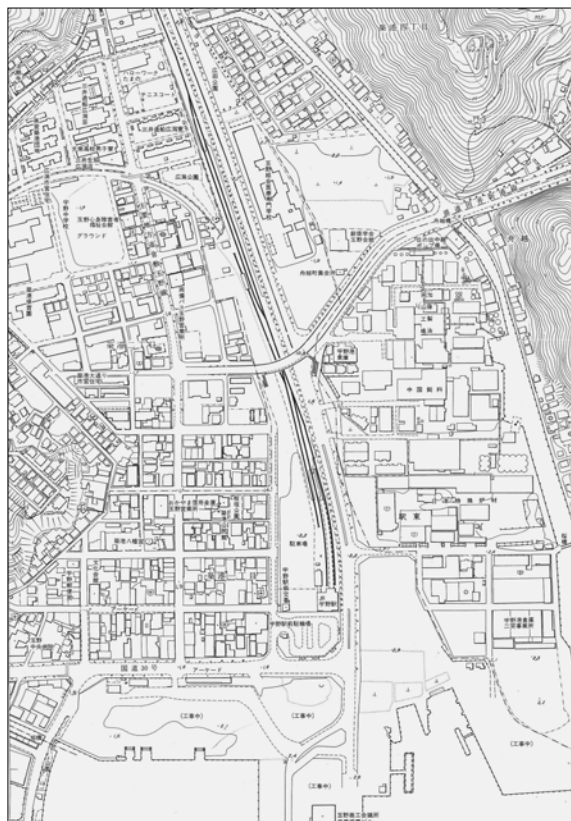
1. 点検範囲や内容の決定

まず最初に決めることは「まち歩き」の範囲です。特に、対象地域が広い場合、全てを点検することは難しいです。そこで「まち歩き」の目安として、1時間程度で歩くことのできる範囲に決めましょう。

次に点検内容〔内容の詳細はチェックシート(7頁)参照〕を決めましょう。

たとえば、日頃から「危険だなあ」と感じられる場所や日常的に利用される場所などを考えてチェック項目を決めましょう。

何人かで集まってチェック項目を決めるとより良いでしょう。



ワンポイントアドバイス

楽しく無理のない計画を！
企画力の勝負です。

2. 「まち歩き」の日時の決定

日時を決定しましょう。

できるだけ、地域みなさんが参加しやすい日や時間を設定し、事前に調整すると良いでしょう。

より多くの人に参加してもらうため、曜日や時間帯を変えて、何回か開催するとより良いでしょう。

3. 参加人数の予測とPR

地域の規模や点検範囲などから参加人数を想定しましょう。

消防団員の方や町内会の役員などと直接連絡をとって参加を呼びかけるとともに、回覧板やチラシなどによってPRするのも良いでしょう。

幅広い意見を聞くためには、女性や子どもの参加も大切です。

4. 会場の手配

予測された参加人数から会場を手配しましょう。当日は地図を広げてみなさんで作業をします。新聞見開き（A0）程度の地図が広げられる机が必要です。〔STEP2(8頁)の会場セッティング参照〕



ワンポイントアドバイス

分からないときは玉野市や
消防本部に相談するのも
よいでしょう

5. 地図の用意

大きさの違う地図が必要です。

■歩きながら書き込むための地図

住宅地図や都市計画図などを利用して、点検範囲の地図を参加者の人数分用意します。地図の大きさは、A4～A3程度が良いでしょう。

テーマに応じて地図の種類や縮尺を選びます。



■会場でみんなで作業するための地図

地図の大きさは、班で囲んで作業がしやすいように、新聞見開き2枚（A0）～畳1畳分を目安とします。



ワンポイントアドバイス

地図が手に入りにくい時は
玉野市に相談しましょう！

6. 準備物(道具箱など)の手配

参加者全員で地図上に書き込みしたり、まとめなどの作業をします。これら作業に必要な道具を準備しましょう。〔STEP2(8頁)の用意するもの参照〕

7. チェックシートの準備

参加者がまちを歩きながら、どういった視点で点検をすれば良いかをまとめて、チェックシートを作しましょう。

(右のチェックシート例を参照)

◆チェックシート例◆

		凡例	メモ
安全な場所	1	広い空間	
	2	広い駐車場	
	3	公園・広場	
	4	高いところ	
災害時に役に立つ場所	5	消火栓・消火器	
	6	防犯灯	
	7	防火水槽・井戸・水場	
	8	消防機庫	
	9	公衆便所	
	10	公衆電話	
	11	病院・医院	
	12	薬局	
	13	防災資材のある店	
	14	コンビニ・スーパー	
	15	掲示板	
危険な場所	16	狭い道	
	17	行き止まり	
	18	危険な道	
その他	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		

8. スタッフの役割分担と当日のスケジュール

スタッフは、全体の進行役に1名、班ごとのまとめ役に1名を決定して、当日の流れを把握しておきましょう。

次に、当日の時間割を作りましょう。

準備と班分け、役割分担で1時間、「まち歩き」に1時間～1時間半、マップづくりに1時間～2時間位を目安とすると良いでしょう。

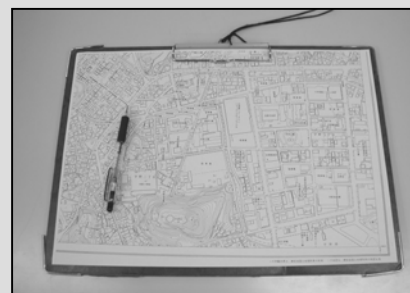
●STEP2 まちを歩いて点検しよう！●

◆作業の流れ

- ☐ 1. 会場のセッティング
- ☐ 2. 班分け
- ☐ 3. 役割分担
- ☐ 4. まち歩きスタート

◆用意するもの

- ☐ まち歩きチェックシート
- ☐ 地図（まち歩き用）
- ☐ カメラ（デジカメなど）
- ☐ 画板
- ☐ 筆記用具
- ☐ 名札

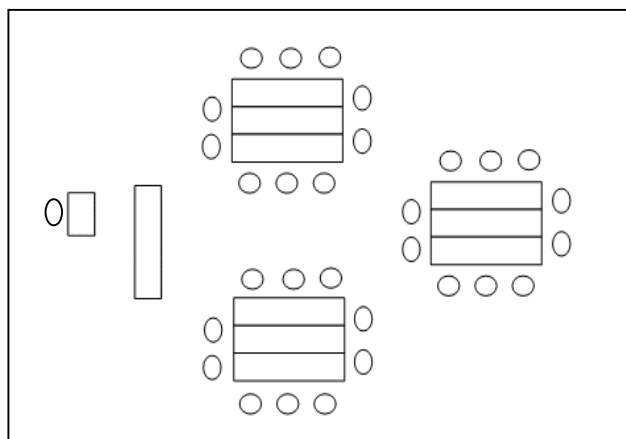


1. 会場のセッティング

会場に到着したら、机や椅子などの会場準備と「まち歩き」に必要な道具を並べます。

1班は6～10名程度です。テーブルをつなぎ合わせて、作業がしやすい大きさにセットします。

（右の会場セッティング例を参照）



2. 班分け

6～10名程度を目安に参加者を各班へ誘導します。その時に、各参加者へ名札を配り、名前を記入してもらうと良いでしょう。



ワンポイントアドバイス

仲良しグループでかたまりすぎないように班分けに気をつけましょう！

3. 役割分担

全員が積極的に取り組めるよう、事前に班内で役割分担（点検係、カメラ係）や歩くルート、点検する内容（チェックシート）などを決めてから出掛けましょう。

1 時間程度を目安に会場へ帰ってくる時間を決め、「まち歩き」をスタートします。

係	役割担当の例	氏名記入	凡例 番号	チェックするもの
撮 影 4 名程度 (デジカメ 2 機)	係から言われた所を撮影する人	■		「安全な場所」係
	撮影表になぜそこを撮影したかメモする人	■		「役に立つ場所」係
	係から言われた所を撮影する人	■		「危険な場所」係
	撮影表になぜそこを撮影したかメモする人	■		「その他」係
安全な場所 2 名程度	マップに書き込む人－1 名 見つける人 －1 名	■	1	広い空間
			2	広い駐車場
			3	公園・広場
			4	高いところ
災害時に役に 立つ場所 3 名程度	マップに書き込む人－1 名 見つける人 －2 名	■	5	消火栓・消火器
			6	防犯灯
			7	防火水槽・井戸・水場
			8	消防機庫
			9	公衆便所
			10	公衆電話
			11	病院・医院
			12	薬局
			13	防災資材のある店
			14	コンビニエンスストア・スーパー
			15	掲示板
危険な場所 3 名	マップに書き込む人－1 名 見つける人 －2 名	■	16	狭い道
			17	行き止まり
			18	危険な道
その他 2 名程度		■	19	



ワンポイントアドバイス

事前に役割を決めておくとみんな張り切って点検してくれます。

4. まち歩きスタート

画板に地図、チェックシート、筆記用具をセットして、記録係の人はデジカメやカメラを持って「まち歩き」に出掛けましょう。

危険な場所や役立つ箇所など、事前に話し合った点検箇所を確認し、チェックシートや点検マップ（歩きながら書き込むための地図）に書き込みます。

特に重要と思われる箇所については、班全員で確認しましょう。

チェックシートや点検マップは後で清書するので、メモ書き程度でよいでしょう。

カメラ係は、特に気になる場所を撮影し、撮影ポイントがわかるように地図へメモ書きします。

会場に帰って皆で話し合いたい箇所を撮影しましょう。

リーダーは参加者に意識を向けてもらえるような会話をしましょう。

例えば、「ここは行き止まりですね」「自分たちでこの消火栓は使えるのでしょうか」「ここの鍵は誰が持っているのでしょうか」など。



ワンポイントアドバイス

常に交通安全に注意を払い、通行人の邪魔にならないように、長時間立ち止まることや雑談などには注意しましょう